

新春異色対談 東原俊郎×秋山孝二

公益財団法人太陽財団
理事長

公益財団法人秋山記念生命科学
振興財団 理事長



写真左・東原 俊郎さん 写真右・秋山 孝二さん

道内は官依存が強いせい、官製の財団法人はあまたある。そんな中、ひと際活発な活動を続ける民間の公益財団法人がある。「太陽財団」と「秋山記念生命科学振興財団」がそれだ。今回は両公益財団法人の理事長に北海道へのこだわりと思いを大いに語ってもらった。

(進行・文／山田勝芳)

偏見ある業界を変革したい
少年野球場と託児所の開設

—企業が資金拠出をしての社会貢献はあまり見聞きしません。一方で市民グループの社会活動や環境活動もあまた出現しているけれど、どの団体も資金調達にみんな四苦八苦しています。その中で2つの公益財団は彼らを支援すべくひと際活発な活動を続けられていますね。

東原 北海道は150年経ったとはいえ、経済が盤石じゃないから企業も正直そこまで手が回らないというのが実態じゃないでしょうか。150年経って何が進化したか。中央に頼る、官に頼る、ここから今でも脱していない。私は財団の活動を通して、社会や経済の活性

化をしていきたい。秋山さんもそうだと思いますが、われわれは郷土に対するこだわりや思いを殊更強く持っています。

私の会社はゲームとパチンコです。それも好んで入った業界ではなく、銀行からの依頼でもあり、偏見を持ちながらこの業界に入りました。パチンコ業界に対する偏見を払拭したいため、何ができるか考えました。最初に手掛けたのは「少年野球場」。

学校のグラウンドや河川敷の野球場はなかなか借りられない。やつと公園の野球場を借りられても、グラウンドが荒れていて滑り込んだら石で擦れかけてしまう。雨が降ればぬかるんでしまう。中止にしてまたの機会にしたらと思ったけれど、今度はいつ借りられ

るのかわからない。少年たちは困っていました。そんなことで、1995年に野球少年のために野球場を作った。

ちょうどそのころパチンコ業界は30兆円産業といわれるぐらいの全盛期、その中で車に置き去りにされた子供の死亡事故が本州でありました。日遊協の役員もしており対策を講じようとなった。

1996年にオープンした篠路店から、託児室のピノキオルームを店舗に併設した。偏見を少しでも払拭したいと思ひ、やりましたね。2001年に太陽財団も設立し、様々な市民活動を支援する取り組みが始まりました。

歴史を総括する中で
北海道の新たな歴史を創ろう

—昨年は北海道命名150年ということで、各産業界で実りある「総括」があるかなと思いましたが、それもなかなか幕が閉じていきませんでした。これまでの何が良くて、何がダメなのかの議論が少なかったように思います。

秋山 秋山家のルーツは明治24年に千葉県から渡道して始まり、私で四代目です。そこで受けた教育とかいろいろ人との関係性も肯定的にとらえて「誇りに思っている」と照れもなく言えますね。

しかし、北海道150年の総括という別次元の問題になる。150年を否定的に総括すると、「ネガティブだ」という人もおられる。国の出先の長が、「北海道にはフロンティア精神がある」とよく言

いますが、本当にフロンティア精神を持ってやってきた人がどれほどいるのか、歴史を見る限り懐疑的にならざるを得ません。

流れてきた人、強制的に連れてこられた人、いろんな思いを持って北海道にやってきた。多様な人たちが暮らしてきた150年という総括ならわかるけれど、皆が皆フロンティア精神の持ち主、開拓者だというのは歴史認識に間違いがある。フロンティア精神と言っているうちは、この先100年経っても変わらない。総括をしないというのは、この北海道をちゃんと見ていることですよ。

2、3年でこの地を去っていく方も多いけれど、我々はそうじゃない。100年、15

財団活動の原動力は 北海道へのこだわりと郷土愛



東原 俊郎さん

東原「創意工夫でやれるものはたくさんある」

がお上手で言っているだけで
すよ。

創意工夫でやれるものはたくさんある。「農業がいい」「漁業がいい」と言っても、北海道は国土の22%もありながら経済は全体の3%ちよつとです。段々畑がないのも北海道ぐらいで、広大さを活かしている。子どもがどんどん生まれて、その子供たちの働く場を創意工夫で作ってあげる。農業も6次化は途上だし、まだまだやれますよ。勇気と愛情があればやれます。

20年くらい前にベストセラ―になった「葉っぱのフレディ」があった。葉が落ちて腐葉土になり、幹がどんどん太く成長する。北海道も150年も経ったのだからもっといいものに育っていいのには、現状を見る限り寂しいですね。

われわれの思いを託す

託された側は応えてほしい

秋山 公共って官の専売特

許ではありません。民が公を
思う心、秋山愛生館の時から
社是がそうでしたから、何の
違和感もなくやってきまし
た。株式会社でやるか、財団で
やるかの違いであって、社会
的実体としての財団は、ど
んな状況でも継続性にその社
会的使命があると思っていま
す。

バブル時代、1%クラブと
か企業メセナとか言っていた
企業は一体どうしたのか。利
益が出たらやる、それはちょ
つと違う気がしますね。

財団が設立されて32年経っ
たけれど、スタートから20年
間は研究助成だけでした。研
究者の人には「文科省の科学
研究費は税金の投入で賄われ
ている。しかし、財団のお金は
私個人のお金ではなく、財団
を支えてくれる人たちの寄付
で成り立っている」と毎回言
っています。だから「自分には
できないけれど、研究分野の
人に我々の思いを託す50万円
であり100万円だから、そ

ね。自分たちには研究内容が

の思いを忘れないでいただき
たい」と、いつも言っていま
す。

30年以上も経つと、助成先
も花開いたところもあります
ね。ノーベル賞を取った鈴木
章先生も実は19年前に助成し
まして、これが当財団の誇り
です。当時はそれ程注目され
ていなかった研究だったけれ
ど、助成先として採択しまし
た。

今のステージは個々の研究
者のアウトリーチです。学校
の授業で、研究室の実験器材
を持って行って実地に教え
る。研究室で完結するのでは
なく、子どもたちが理科系に
関心を持つように教える。高
校生ともなるとすごく好評で
すね。

東原 助成先が花開いて広
がっていくというのは我々の
喜びですね。変な例えですけ
れど、子どもたちが段々成長
していくようなものですね。

秋山 まったくそうですね。自分たちには研究内容が

未知の分野で、何回見たって
わからない(笑)。だから「託
す」って感じかな。「最初に
採択されたのが秋山財団から
でした」と聞くと、すごく胸が
熱くなりますね。

東原 秋山さんは「託す」と
いうことばで表現しました
が、そうなんですよ。「託す」
なんです。君に託すといっ

て自分では難し過ぎて分から
ない研究とおっしゃっていま
したが、私もよく分からない
市民活動があります。あげる
じゃなくて「託す」なんです
よ。託された方はそれに応え
る努力もしなければならな
い。貰ったから「それでよし」
とするケースは結構ありま
す。

秋山 市民活動は結構その
傾向が強いですね。思いを受
け止めたというより「貰った」
というだけで終わってしま
う。報告書もあまりピンとこ
ないケースもあった。収支の
表は出ているけれど、我々が
知りたいのは活動の中身、や
はり「託す」んだから中身を報
告してほしいですね。

東原 助成を受けた相手も
託されたんだから頑張らなく
てはという気持ちを持ってく
れなければ、町の賑わいづく
りや活性化も期待できない訳
ですよ。託す思い、託された責
任、そういうことで我々の期
待に届いてほしいですね。

有為な若者たちの出現で 北海道の風向きも変わるはず

秋山 日本社会は中央集権

だから、文科省の研究に向け
た予算配分も理化学研究所や
東大、京大辺りに傾斜的に配
分されています。短期間で結
果を出すことが求められてい
ます。地方はその分、割を食

う。環境もいいし、情報も世界
とつながっています。先生た
ちも以前はかなり予算を獲得
していました。それが今は過
度の競争的資金となりハンデ
を背負っています。国民世論
も概してそれでいいという風
潮があるのも残念です。

しかし、基礎研究分野に予
算を投じなければノーベル賞
なんか出てこない。日本全体
で見ると、損失の方が大きい
と思いますね。日本は賞を取
ると、資金も集まりだす。私は
財団の中では「勇気をもって
選考してほしい」と言ってい
ます(笑)。

—東原さんは会社でも相思
相愛のファミリー的な会社経
営をしておられます。太陽財
団の活動を見ても北海道丸ご
とをファミリー的に見ている
のかなと感じますが。

東原 この間、タイに一週
間の予定で行ったんだけど食
べものも口に合わないし、
予定の日数を半分残して北海
道に帰って来た(笑)。北海道

は自分にとって居心地いい。
北海道は大きなファミリーで
す。一丸となって頑張つて地
域経済の活性化をしたい。

秋山 若い人たちの頑張り

が目立つようになりまし
た。閉塞感ある時代だから、む
しろ地方の方がいろいろやれ
ることがあります。「ダメだ、
ダメだ」と言ったら人は育た
ない。励ましたり、根拠なき楽
観で持ち上げる。そういう人
たちも必要ですよ。

—先日、若い起業家たちの
座談会をしたのですが彼らに
やる気を感じました。彼らの
ような若者たちが北海道のマ
イナスイメージを払拭し、色
を塗り替えていくのだと思
います。頑張ってもらいた
いですね。本日はありがとうございました。



秋山 孝二さん

秋山「思いを託しているのだから応えてほしい」